婦人と新社會

山田わか主筆

八月號

社會進化の過程

哲學者ご色眼鏡

ショーペンハワーとハートマン＝一元的解釋主義＝いかけやと機械學者＝齊年と指導者＝人間苦と指導者

國民の勤儉は中央政府を始めごして諸官衙が第一に實行すべし

てる子夫人のごるべき第一歩

産兒制限ごオランダ

――編輯の後――

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十四年七月廿三日印刷納本

毎月一回一日發行　第六十五號　大正十四年八月一日發行

東京婦人と新社會發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會進化の過程

それ〴〵の故郷を離れて、有利な土地に住居を定めたいろ〳〵異つた人々の集團的生活が文明の第一期であつて、そして、この時代の特長は主權の發達、政治的結合、軍國主義、勞働者の統一、歴制、及び、標準の確立である。

文明の第二期は反逆、批評、法治の發達であり、そして、その特長は憲法の發達、自由主義の政策である。

それから、文明の第三期は科學によつて可能となり、その特長は自他の個性を重んじ、他人の私事を考慮し尊重する態度と習慣の發達となり、その結果、自己決定、思想、言論、及び、行爲の自由となり、そして、人々を道徳的に發達せしめ、責任觀念が共通となる。

で、今、我々現代人は丁度此の第三期に這入つたばかりであつて、そしてこの進歩の過程をグン〳〵進めて向上して行くか、又は、第二期に逆もどりするかの分岐點に立つてゐるのであるが、さて、そのどちらの方向に傾いて行くかは一つにかゝつて今日の指導者の責任である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

哲學者と色眼鏡

【ショーペンハワーとハトーマン】一方にはキヤントとヘーゲルを、そして、他の一方にはショウペンハワーとハートマンを擧げてメルツは云つてゐます。

前者の一人則ちキヤントの凡ての思索及び著述は未來の實證哲學に對する單なる準備であるし、又、ヘーゲルが三十八歳の時に發表したものは彼の未來の哲學組織のための單なるプログラムに過ぎない。それに反して後者の二人は比較的若年に於て既でに哲學問題の解決に到着してゐた、と。

そして、この二人則ちショーペンハワーとハートマンは自分が若い時代に造つた公式に執着してゐて——これは實社會から並びに實際利益から離れて隱遁的生活をしてゐる人の特性——常に科學藝術、及び、人生のあらゆる方面に注意深い、研究的の目を向けることには怠りはなかつたけれども、併し、その目には常に色眼鏡がかかつてゐた。そして、彼等は其の色眼鏡を通して見たものを『眞理なり』として發表した、とも云つてゐます。

つまり、ショーペンハワー並びにハートマンはキヤントが提出して置いた疑問『もの其れ自身と

は何ぞや？」と云ふのに答へて、ショーペンハワーは『意志だ』と云ひハートマンは『無意識だ』と云ひ、そして、それによつて宇宙萬物の一切を說明しようとした、云ひ直せば、『意志』と云ふ色眼鏡、『無意識』と云ふ色眼鏡が彼等の哲學の全部を支配してゐるのです。

その外、スペンサーの『適者生存』ダーウィンの『優勝劣敗』クロポトキンの『相互扶助』ベルグソンの『創造的進化』オイケンの『活動主義』ジェームスの『實行哲學』又はマルクスの『唯物史觀』等、其の外、數へ上げれば限りがありませんが、要するに、それ等は皆厚薄の違ひこそあれ、矢張り一種の色眼鏡であるのです。

そして、若ければ若い程その眼鏡の色が濃いので、それだけ危險率が多いのです。

【一元的解釋主義（パテキラリズム）】 前段に於て擧げた其れ等のいろ〳〵の觀念は、要するに、一元的解釋主義であつて、つまり、一つの觀念をもつてあらゆるものの一切を解釋しようとするのです。云ひ直せば、數ある過程のうちの一過程を捉へて、もう一度云ひ直せば、いくつも〳〵ある相のうちのたつた一つを捉へて、そして、其れによつて凡ての他の方面をも解釋しようとするのです。

一言で云へば、自然界の全部が總がかりで我々人間を造り、我々に生活を營ましめてゐるにも拘らず、其のうちのたつた一つの點のみを見て、人生の有機體的全部を無視しようとする處に錯誤が原因するのです。

で、この一元的解釋主義が起つて來る最も手近かな原因は自己主張の衝動でありますが、殊にマルクスの場合の如きは其の一元的解釋主義、則ち、自己主張が極端に迄發揮されて居ります。

一體、人間は自己主張の動物と云つてもよい程、他を無視して自己をのみ主張したがるものですが、其れに對して、社會的並びに個人的制限が加へられて、不完全ながらも人間は今日迄進んで來ました。そして、所謂文明なるものが建設されました。

けれども、個人的にも社會的にも必要なる其の制限なるものを打破して無制裁の狀態を現出しようく\としてゐるのが今日の實際の狀態です。そして、いろく\の導火線に導かれて其の制限を打ち破る機會を與へたものは殊にマルクスの唯物史觀です。

云ひかへれば、常に、脫線しようく\としてゐる人間の持つて生れた自己主張に裏書したものが所謂マルクス唯物史觀のうちに總括されてゐる共產主義的社會主義で、そして、これは未熟な青年

男女の頭には眞に入り易いものであります。

【いかけやと機械學者】赤ん坊が生れて始めて意識する世界はまるで大きな蜂の巣を破した時のようにブン〳〵ガヤ〳〵したものであらうと云ふジエームスの言葉は本當に適切に新らたに生れた人間と社會との關係を云ひ現したものです。

處で、世の中には一生涯さう云ふ赤ん坊の心の狀態で過してしまふ人間が少なくありません。さう云ふ人間は自分を取り卷いてゐる社會の秩序や意義を決して見ることが出來ず、夢中で一生を終つてしまいます。

さう云ふ赤ん坊の心と比較すれば、もう少し成長した心を持つた人々があります。さう云ふ人々の目には普通一般の人には誰にでも理解できるような極く單純な社會秩序が明らかに映ります。そして、彼が了解出來る範圍に於ては彼はもう迷ふことはありません。

その次には、もう一段の成長を遂げた人々があります。つまり、赤ん坊の心から脫してしまつた人々があります。そして、さう云ふ人々は此の世界は整然とした計畫の上に成立したものと考へ、そして、其の計畫を彼等は充分に理解してゐると自惚れてゐます。自惚れて居るのですから、世の

中のことの一切を理解し、のみ込んでゐるように感じ、まるで時計か何にかのように此の社會を考へ、自分の心次第に勝手に取りこはしたり組み合せ直したり出來るもののように信じ、そして、自分の信じる通りに此の社會を操縱しようとして活動を始めます。

實に、彼等は此の社會の複雜な部分を見殘し、表面だけを簡單に直線的に解釋して、其處には彼等の到底理解出來ない點が伏在してゐることを知りません。

ですから、彼等の社會に對する知識と腕前とを本當の社會學者の知識と腕前とに比較して見るならば、丁度、いかけやと機械學者との違ひ程の差があります。

けれども、其のいかけやなる者が今は餘まりに多數あつて、そして、機械學者の手に委ねられねばならぬ仕事に其等のいかけやが手を付けてゐるので、元來複雜である社會が益々複雜になり、混亂し、一般を苦しめてゐると云ふのが今日の實狀です。

【青年と指導者】それ等のいかけやなる者は好んで、まだ思慮の足りない青年男女を煽動しようとします。それは煽動には未熟な青年が最も乘り易いからでもありませう。で、此の青年の力と云ふことに付ては或る機會に一度書いて置きましたからそれを次に擧げて置きませう。

青年が國の力であることは云ふ迄もありません。國に於ける青年は船に於ける蒸氣力です。船は蒸氣の力によつて進み、國は青年の力によつて其の勢力を保ち、營みを繼續します。が、國に於ける青年の力は船に於ける蒸氣の力ではあつても、併し、楫ではないことを忘れてはなりません。

何物をも吹き飛ばすことの出來る程の素晴らしい蒸氣力を備へた船に正確な楫が無かつたならば其の船の運命はどうなるでせう？　燃え上がる青年乃至學生の情熱に正しい楫が與へられなかつたならば青年乃至學生の其の力は國を倒すに充分であるでせう。

實に、正しい楫を失つてゐる現代の青年乃至學生は人生に於けるものの本末を顚倒してゐて、平等論が流行すれば、其れが恰かもものの根源を發見したものであるやうに考へ込み、意味もなさない、理窟も立たないことを云ひ立て、マルクスとかエンゲルスとか云つて熱狂したり、性の研究とか文化生活とか云ひ立てて、皮相な事柄を人間の根本問題でゞもあるかのやうに其れに沒頭したり又は、云ふ口の下から破壞されてゐるにも拘らず依然と安價な世界平和論を稱へたり――人間の期待を裏切つて折り〳〵暴風雨があるやうに、人間と人間との間に折り折り軋轢が起るのは先祖から引きつゞいての因果があるからです――實際、今日の大多數の青年乃至學生は本末顚倒流行病にか

かつてゐるやうなものです。

ブルジョアが一切滅びてプロレタリアの世になるとか、人間の力が皆平等になるとか、民衆即ち眞理であるとか、實に、それは人間の實體を裏切り、自分を買ひかぶり、自分をごまかしてゐるに過ぎないものです。

一國の活力、即ち、青年乃至學生が正しい梶を、他の言葉をもつて云へば、正當な指導者を得るか、得ないかによつて、國家は倒れもすれば隆盛にもなると云ふことを、今更ながら上海事件の原因となつた支那學生の行動によつて考へさせられます。

要するに、正當な梶を得た青年學生は國を興し、梶を持たない乃至は惡性の梶を持つた青年學生は國を倒します。

【人間苦と指導者】 婦人問題に關しても、婦人としての生活に充分なる經驗を嘗めてゐない者の主張に權威を持たせることは女性の不幸を招致するばかりでなく、人類全體の幸福のために非常に危險であると云ふことは私の常に主張してゐる處でありますが、實際、どんなに聰明であつても、若ければ若い程人は經驗が少ない。指導の位置に立つには人間苦の嘗めかたが少ない。從つて、所

猜色眼鏡をかけがちであります。一元的解釋主義に陷り易いのです。

さう云ふ危險な指導者に國の力である青年が引きづられつつあると云ふことは何と云ふ恐しいことであるでせう。

こう云ふ危險な勢力に掣肘を加へ得る人は充分に人間苦を嘗め盡した人であらねばならず、又、さうすることが其れ等の人々の義務であり權利であらねばなりません。

國民の勤儉は中央政府を始めとして諸官衙が第一に實行すべし

勤儉、節約の高唱も隨分久しいものでありますが、併し、切りつめても〳〵まだ收支償はないで苦しんでゐる人も決して少なくないことは確かです。さう云ふ人々にとつては「節約せよ」と云ふ言葉は腹立たしくもあり滑稽にも聞へます。そして、私自身が其れを腹立たしく滑稽に聞く一人です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又、何處の家庭でも常識のある人達の家庭であるならば、ものを無駄にしてはならないと云ふことは誰でもが心がけて居ることです。一かけらの炭火でも、もう用が無くなつたと思へば火けしつぼへ入れるなり水をかけるなりして消して置いて明日使ふ分の中へ加へます。けれども、お役所と云ふ處では大抵さう云ふことはしないようです。私のうちの近所に或る役所へつとめてゐる靑年がありますが、其の役所では一つの火鉢に使ふ一日分の炭が一俵づつと云ふことになつてゐます。なにしろ、一つの火鉢に一俵と云ふのですから可なり大きい火鉢でも一日のうちに使つてしまうのは隨分骨が折れるので、これでもまだ使ひきれない、これでもまだ餘まると云つてどん／＼炭を投げ込むので隨分寒い時でも熱くて火鉢の傍へはよりつけないと云ふことです。凡てが其の調子で、一年度の終りに餘まつた豫算は何とかして使つてしまはうとして苦心するそうです。そして、見學と云ふ名目で役員一同が團體旅行をしたり花見をしたりします。その局に當つてゐる人の意見は豫算を餘ますとそれだけ來年度の豫算をけづられるからと云ふのださうですが、併し、國民こそ本當に馬鹿にされてゐるようなものです。

　私達は何とかかとか名目を付けられて税金を拂はされますが、其れも、國家を維持し、國家的の

事務を取るための維持費だからと思へばこそ、我慢が出來るのですが、併し、今云つたようにして私共の血の出るような金を無理に使つて居るのだと云ふことを知つては何とも口惜しい思ひが致します。

勤倹とか節約とか云ふと、いつでも、主もに家庭の婦人が對照にされて、婦人がつゝかれてゐるのですが、勿論、だらしのない四六時中ものを無駄にしてゐる婦人もありますが、無駄をしたくもする餘地を持たない婦人も随分少なくないのですから、私共は何時もつゝかれてゐることとの反對につゝかれないように家庭生活を緊張させて置くと同時に、男子の浪費や、町の世帶、都市の世帶、及び國の世帶のうちに現に行はれてゐる莫大な無駄に付て大いにつゝいてやる必要があります。要するに、勤倹節約は國民に强要する前に中央政府から始めて大小の諸官衙の仕事の仕ッぷりから實行して貰いたいと思ひます。

てる子夫人のとるべき第一歩

杉浦宗三郎博士が讀賣新聞記者に話して居られるのを讀んで、愛娘てる子夫人のために千々に心を砕いて居られるのは本當に同情に耐へません。けれども、そのお話のうちの『處女美』と云ふことゝ『日蔭者』と云ふことに付て私は博士に考へ直して頂きたいと思ひます。『處女』は美しいものであるに相違ありません。もし、夫以外に妻以外に異性を知らぬ夫婦者があるとしたならば其れは何と云ふ美しさであるでせう。夫婦として最高最美であるに相違ありません。けれども神ならぬ身の人間にはあやまちもあります。不慮の出來事に遭遇することもあります。そこで、先づ、十中の七八人迄は現在の配偶者以外の異性を知らぬと云ふわけには行かないのです。のみならず、處女美の所有者が必ずしも結婚に成功すると云ふわけに行かないことは現にてる子夫人の場合が證明してゐます。又、處女であるからと云つて人間としてつまらないデクノボウであるならば處女美は一向に映へはしません。で、要は、夫婦の幸福となるものは、肉體的處女である無いは第二の問題で、第一の問題は人間としての價値の問題、つまり、精神的處女の問題です。

それから、『日蔭者』と云ふ言葉に付てゞありますが、これは余まりに女性を侮辱した言葉です。夫はあつても無くても、又、夫が公明正大な人であらうが罪人であらうが一婦人には一婦人に必要

だけの日光が天から惠まれてあることをお考へ下さい。博士は、てる子夫人が、『處女美』を失ふと云ふこと、又『日蔭者』になると云ふことを恐れて離婚の請求を躊躇して居られるように思へますが本當に其れは今云つた理由でつまらない心配です。私に云はせれば、此の場合てる子夫人は斷然離婚を請求なさるのが至當です。不貞な夫に對しては離婚を請求することが今後の婦人のとるべき最重要事です。どんなことをされてもグツ〳〵にして置くことがあらゆる不幸女性侮辱の源です。

そして、俊太郎氏が本當に過去を誨ひ、夫人の前に膝まづいて詫びを云ひ、其の結果、夫人の心に氏に對する同情の涙が沸くならば其の時に改めて結婚のしなほしをなさるがよいのです。

俊太郎氏の謙讓と夫人の同情とが合して夫婦愛が復活するならば二人の間に一度出來た愛の溝渠も充分に埋まります。俊太郎氏に對する世間の非難も其の他如何なる困難も夫人は氏と共に喜んで背負ふて上げることが出來るに相違ありません。けれども、俊太郎氏の悔悛も見ないであやふやに復歸するならば一度出來た愛の溝渠は埋まる時がないばかりでなく、其處から絶へずいろんな化物が出て來て苦惱は止む時がなく、お子さんのためにも斷じてよい家庭は出來上りません。ですから、結果はどうならうとも、とにかく、離婚の請求と云ふことが問題解決の第一歩です。（十九日）

産兒制限とオランダ政府

産兒制限肯定論者が制限をした好結果に付て〳〵辯じて居る處があるが私は常に其れを疑つてゐた。なぜなら。三年、五年、乃至十年位ひで其の結果の善惡を斷定することは出來ないと信じてゐたからである。

處が、果して、國民新聞所載、古瀬安俊氏の文中に私の考へに有益な證據を得たから、それを要約して轉載させて頂きたいと思ふ。

『産兒制限論者は其の利益を說く時に世界の産兒制限國オランダの例を擧げて云ふ。「産兒制限をしてから過去五十年の間に全國の壯丁の丈が平均四寸のびた。生れる子供の數は調節するから少ないが併し死ぬ子供が少ないから人口は却つて殖へる。早く結婚するから淫賣婦が激減し、私生兒が少なくなり、どの階級の子も教育の惠みに浴し勞働の狀態も良くなる。故にオランダ國は國家自らがこれに補助を與へ、もし多産すぎる地方があれば看護婦を派して受胎調節の方法さへ教へる」と、どの書物を見ても誰の議論を聞いてもさうあるので、私は此の眞僞をたゞすためにオランダに渡りオランダ政府に此の理由を質した處がオランダ政府はビックリして「我が國では母を丈夫にして、生れる子供を丈夫にし、生れた子供を死なぬようにする社會的の働きには補助してゐるが、併し、受胎を調節する方法や、その知識を授けたり、パンフレットを撒いたり、大會を開くことを許可したことはない。もし、やれば三ケ月の禁錮に處す。唯、個人的に教へて行くことは防ぐ方法がない」と云ふ返答だつた。オランダが産兒制限を實行してゐるのは事實だが併し政府が一緒になつてやつてゐると云ふことは僞りであることが明らかになつた。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯の後

仕事に疲れて散歩したりする代りに此の春ひきとつた亡兄の遺女兒を相手に其の子供の着物を縫つたりしてゐると親しかつた兄が自分の傍に居るような、何とも云へないしんみりした氣持ちになります。兄のたましいが其處に來てゐると信じたくなります。

そして、不圖思ひ起し[illegible]のは「婦女界」八月號の中村武羅夫氏の靈魂非不滅說です。氏は「貞女兩夫にまみへず」と云ふ昔の道德を論破なさる論據として其れを御說きになつてゐますが勿論「兩夫にまみへよ」と仰有る御意見に反對は致しませんが、併し、死んでしまへば無に歸すると云ふ御說には私の實感が贊成致しません。

これは千言萬言費しても恐らく反對意見を持つてゐる人達が一致點に到着することは出來ないでせうが、とにかく、靈魂があるかのように感じさせる或るものが存在してゐて、それがやがて人にも自分にも有益な行爲となつて現れるに反して、靈魂を無としてしまうとさう云ふ行爲が現れて來ないと云ふことは事實だと思ひます。

死者と語り死者と喜びを共にすることは一種の無意識な、同時に、それが善美の精神です。そして、この善美の精神が一切のものの無意識な土臺に根を張りますが、それが則ち神秘です。ですから、この神秘を人間界から取り去ることは、要するに人間界から善美を消滅させることになるでせう。そして、この神秘の要素が最高な哲學に認められる以上は靈魂不滅說は容易に否定できないと思ひます。要するに生死は現象に過ぎないもので、生の裏面に本體があるように死の裏面にも本體があると私は信じます。そして兩者の其の本體は同一物であつて其れが靈魂ではないかと思ひます。

本誌臨時定價表

一冊	金十錢	送料五厘
六冊	前金五十五錢	（送料共）
十二冊	前金壹圓	（送料共）

■雜誌代及郵稅は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割增■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十四年七月廿三日印刷納本
大正十四年八月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區山吹町一八九
印刷人　大杉正次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番